

定時株主総会
事業説明資料

アイスタディ株式会社
2019年3月27日

iStudy[®]

本書は、アイスタディ株式会社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。

また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、アイスタディ株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

1.当社の株式移動について

2.今後の事業方針

- 私たちが目指す姿
- 企業価値向上に向けて

当社の株式移動について

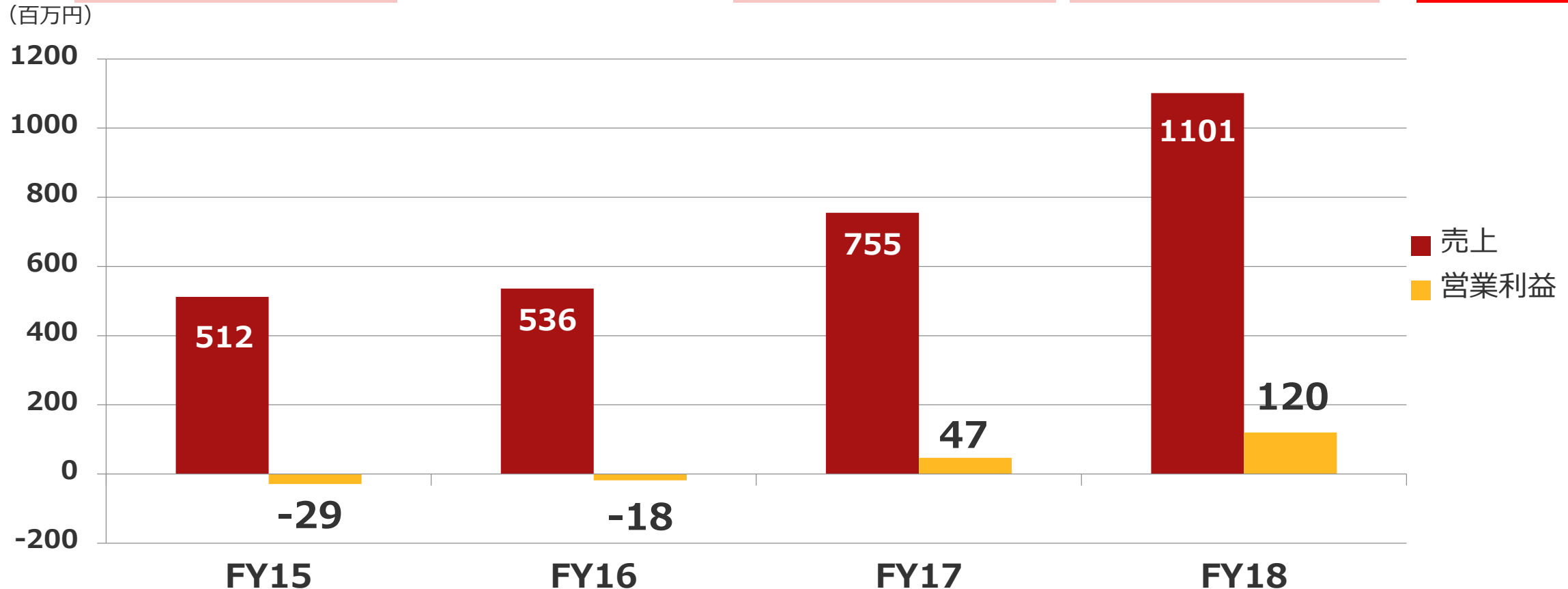
既存事業のLMS&研修サービスのベースに新事業、ブイキューブ・フィスコグループとのシナジー（営業連動など）が加わり黒字企業に！株価も2015年のTOB時よりも上昇！

TOBによりブイキューブグループへ（12月）

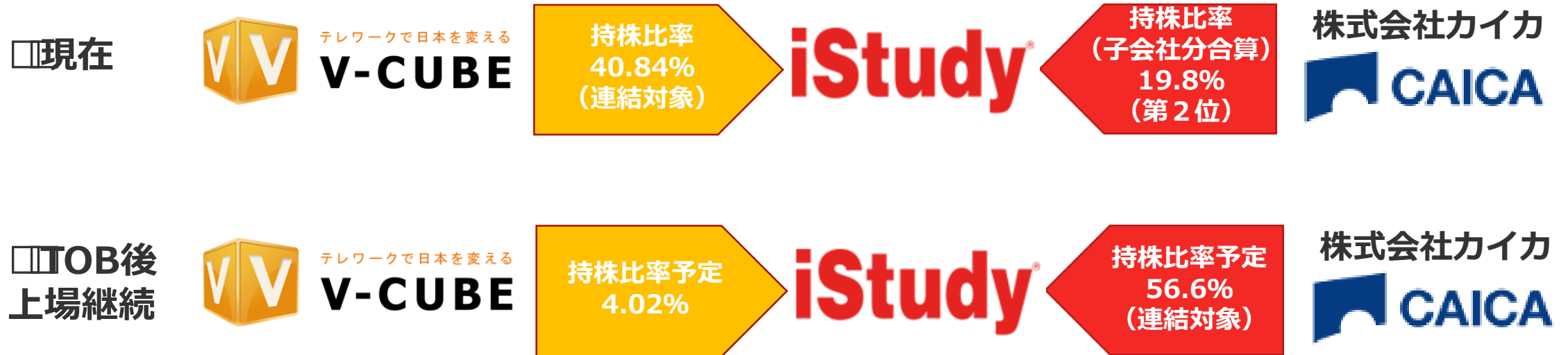
経営改革「第二の創業」スタート。

先端IT人材の育成&人材紹介サービス事業開始

そして新たなステップへ！



株式会社ブイキューブと株式会社カイカの協議により、その保有株式の多くをTOBにより、株式会社カイカに異動することで合意しました。これにより、当社はブイキューブの連結から外れますが、カイカとのシナジーによる次なる発展が期待されます。（TOBは3月13日開始、4月末完了予定）



V-CUBEとの協業継続

- V-CUBEによる当社製品の販売、当社によるV-CUBE製品の販売などの協働を継続

更なる発展に向けたカイカとのシナジー

- 多数の大手優良顧客を有し、約400名の技術者が先端技術開発に取り組むカイカのグループに加わることで、
- LMS事業の顧客対応力向上・顧客拡大
 - フィンテック等のEラーニングコンテンツの拡充
 - iStudy ACADEMY事業の人材育成力・供給力強化など、様々なメリットが期待される

株式会社カイカ - 会社概要

本社	東京都目黒区大橋一丁目5番1号（クロスエアタワー8階）
設立	1989年
資本金	10億円
社員数	連結 727名（2018年4月30日現在） 単体 422名（2018年4月30日現在）
株式情報	市場：東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
事業内容 方針 同社HP 鈴木社長挨拶 より	<p>CAICAは、長きに渡り、お客様の重要なシステムを構築してまいりました。特に金融機関システムの構築は、私どもが得意とする分野です。しかしながら、最初から得意であったのではなく、あえて裏返して申しますと、様々な苦労を重ねてきた結果、得意分野になったのだと思っております。どんなに難しい局面であっても、高品質なシステムを誠実に開発し、お客様に満足していただく。その積み重ねを通して、人々の豊かな生活の実現に貢献していくことは、私どもCAICAの誇りであり、CAICAの歴史そのものでもあります。</p> <p>私たちは今、第四次産業革命という大きな変革の真ただ中に立っています。第四次産業革命における技術革新により、仮想空間はその存在感を増し、ついには仮想空間が現実空間に強い影響を及ぼすようになってきました。IoTの浸透により増大し続けるビッグデータを、AIが分析判断し、現実空間に働きかける。以前はSFの話であった世界が、私たちの目の前に広がっています。オーダーメイド型サービスの拡充や、シェアリングエコノミーの進展、フィンテックの台頭など、第四次産業革命により、私たちの社会構造、そして生活が大きく変わる可能性があります。</p> <p>私どもCAICAは、この第四次産業革命を大きなビジネスチャンスと捉え、先進的なテクノロジーである、ブロックチェーン、AI、ビッグデータにいち早く対応してまいりました。CAICAが創業以来積み重ねてきた豊富な経験とノウハウ、そして先進的なテクノロジー、この両方を備えるCAICAだからこそ挑戦できることが日に日に増えています。</p> <p>一方で、このような時代だからこそ、「人」の価値はよりかけがえのないものとして輝き、コミュニケーションが以前にも増して重要となる、私どもはそう考えています。人が、人を、家族を、社会を思いやる、それは現実空間における私たちのリアルな営みであり、より豊かな生活の実現に寄与するイノベーションの源泉の1つでもあります。</p> <p>CAICAの戦略資産である豊富な経験とノウハウ、先進的なテクノロジー、そして「人」。これらを融合させた、CAICAならではの挑戦にご期待ください。</p>

今後の事業方針

— 私たちが目指す姿 —

ビジョン

HR Tech × Ed Tech の分野にて 日本を代表するソリューションカンパニーを目指す

- HRTech とは
 - テクノロジーの活用によって人材育成や採用活動、人事評価などの人事領域の業務の改善を行うソリューション群を指す言葉で、HR (Human Resources) とテクノロジー (Technology) を組み合わせた造語
 - スタートアップ企業が市場の成長を牽引しており、数十億円規模の資金調達に成功する企業も数多く現れるなど注目を集めています
- EdTech とは
 - Education (教育) とTechnology (テクノロジー) を組み合わせた造語
 - この分野は、進歩を続けるテクノロジーの力を使い、教育にイノベーションを起こすビジネス領域として注目を集めています

私たちはコミット（約束）します

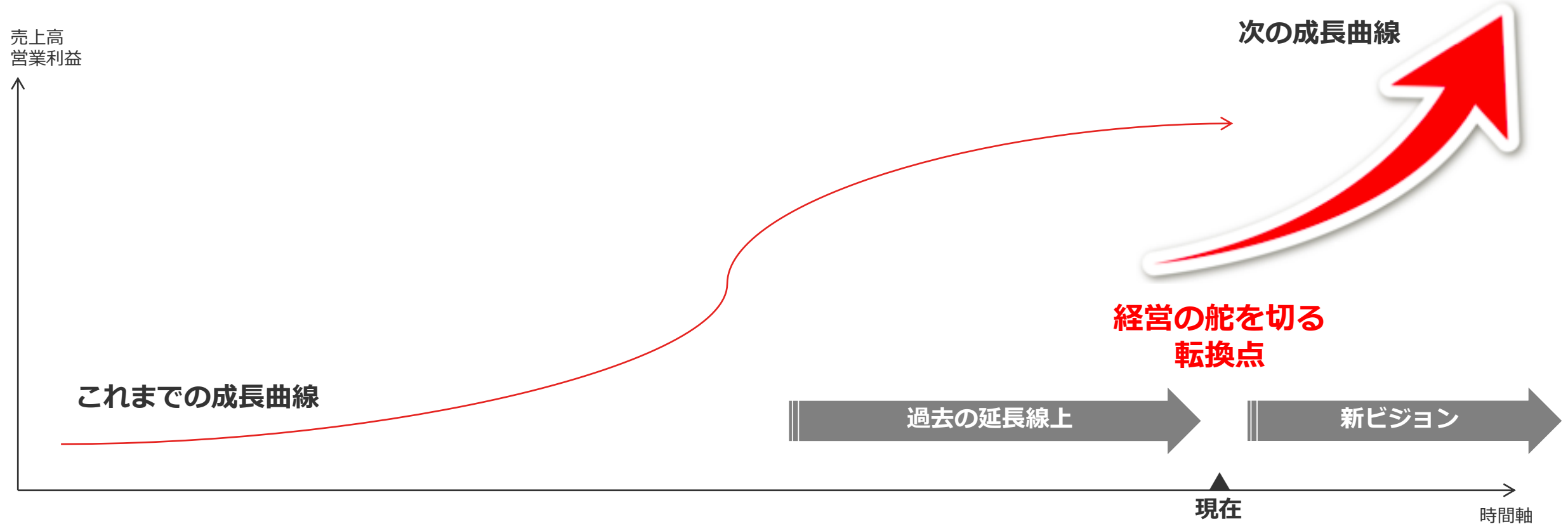
2017年4月～昨期までは第二の創業期
今期からHRテック×Edテック領域に本格シフト。非連続な成長を目指す

TOBによりバイキューブグループへ（12月）

経営改革「第二の創業」スタート。

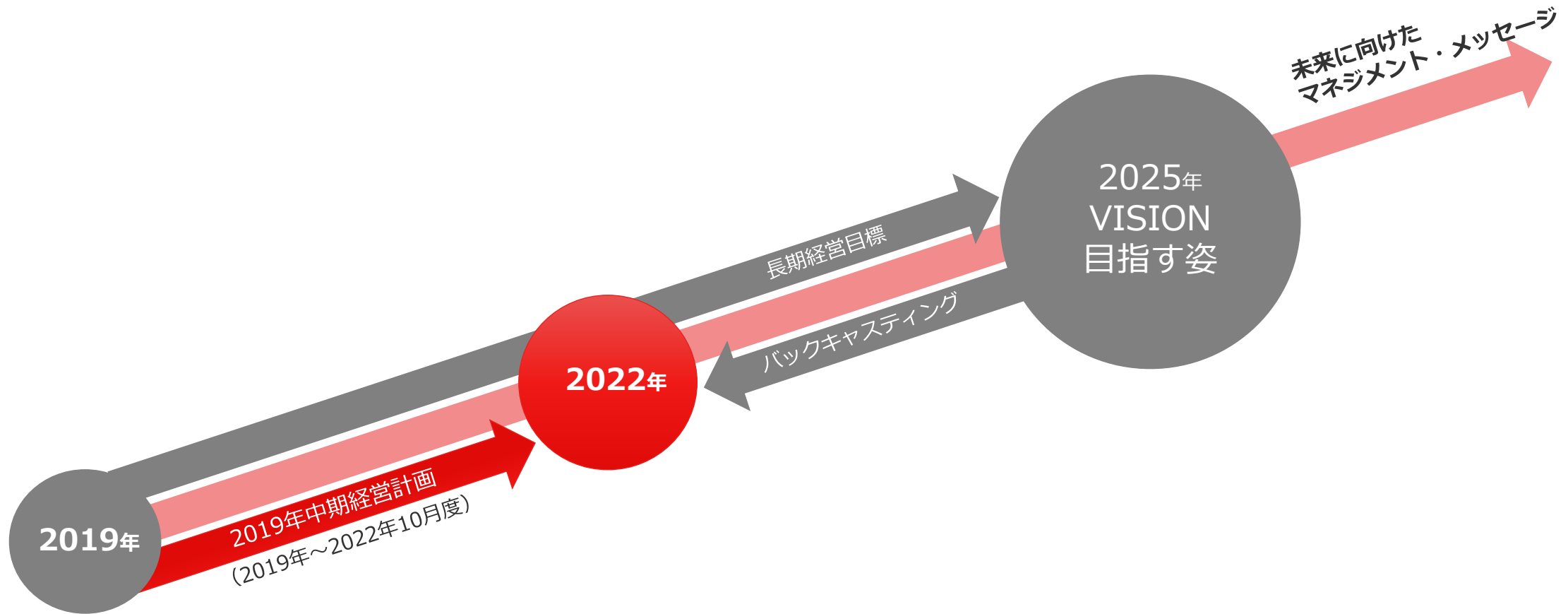
先端IT人材の育成&人材紹介サービス事業開始

そして新たなステップへ！



次の成長に向けた一歩として、ビジョン（=私たちの目指す姿）を描き、それを実現させるための「長期経営目標」を今期（2019年度）に設計します

そこから、バックキャストिंगして「中期経営計画」を策定。定期的にギャップマネジメントを実施し、年次計画を見直しながら目標達成を図ります



当社は、2019年3月12日に公表した「株式会社カイカによる当社普通株式等に対する公開買付けに関する意見表明について」のとおり、2019年4月に株式会社カイカの連結子会社になる見込みとなりました。

そのため、株式会社カイカと当社との間において新たに期待されるシナジー効果について通期業績予想への反映とともに、併せて、今後の事業の成長戦略を盛り込んだ中期計画の策定を予定しております。

なお、通期業績予想及び中期計画の公表日については、公開買付期間終了後に改めて公表予定日を開示させていただきます。

今後の事業方針

— 企業価値の向上に向けて —

当社の企業価値を構成する要素は3つ

01

事業の
収益性と成長性

- ・ 既存事業
- ・ 新規事業

どのような事業が存在し、
どのように成長するのか？

+

02

バランスシート
の価値

どのような資産があり、
何に投資する計画か？

+

03

カイカと当社
との
シナジー効果

カイカと当社との間にて
新たに期待される
シナジー効果とは何か？

当社の事業は、その事業成長や収益性の観点から2つのカテゴリーに分類される

安定成長事業

事業基盤が活用でき、
リソースの投下にて
一定の成功確度で
成長が見込める事業

- LMS事業
- 研修・コンテンツ事業
- ビジネスビデオ事業
- イベントスタジオ事業

急成長事業

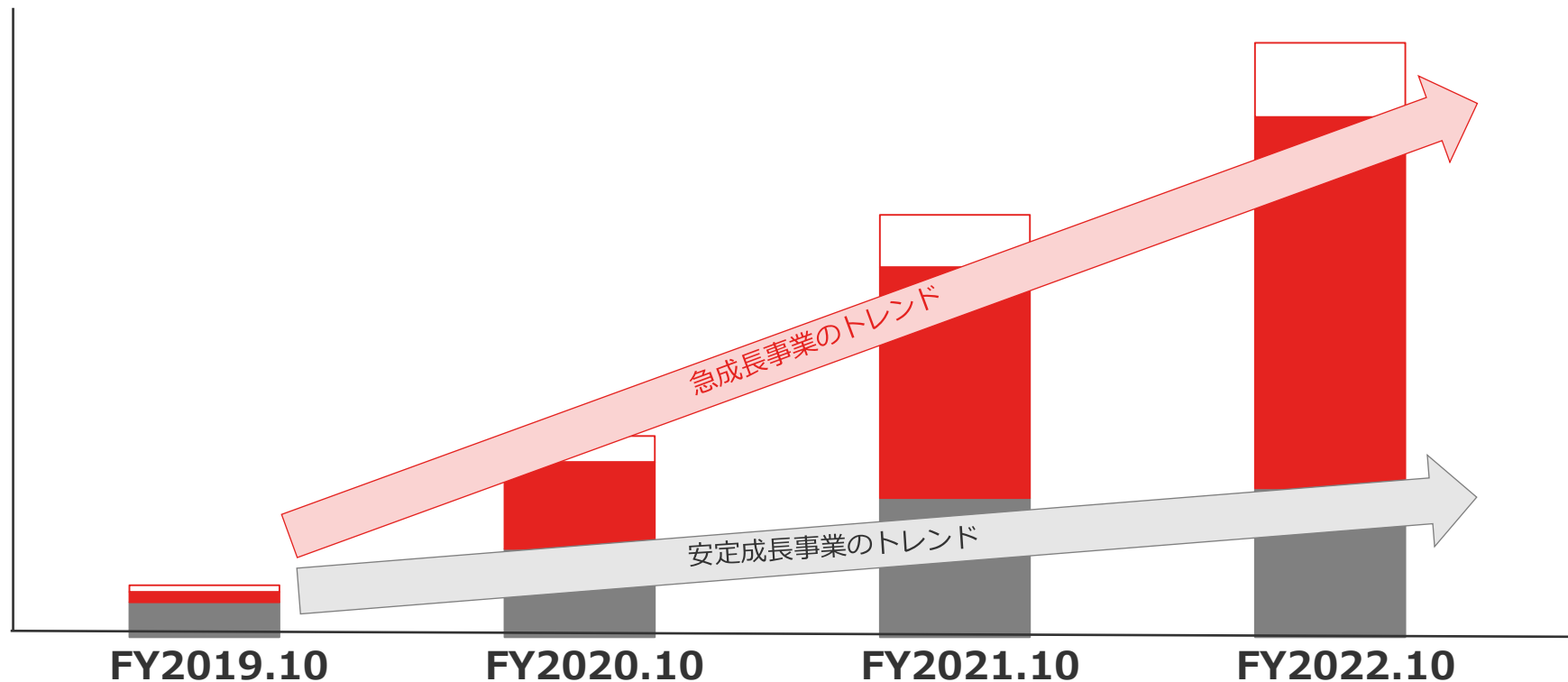
事業の成長確度の
ボラティリティが高いが、
その成長性や収益性が
非常に高い事業

- アカデミー事業
(* 育成型人材紹介サービス事業)

次なる成長エンジン – iStudy Academyを核に、人材サービス事業の拡大を進めていく

中期経営計画における営業利益の推移イメージ

営業利益



シナジー効果

*利益成長に漸次的に貢献

急成長事業

安定成長事業

当社の財務基盤は安定しており、十分な手元流動性を成長投資へ

(百万円)	2017年12月末		2018年12月末	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	1,356	80%	1,413	80%
有形固定資産	46	3%	28	3%
無形固定資産	16	1%	27	1%
投資等	274	16%	262	16%
資産合計	1,694	100%	1,731	100%
流動負債	195	12%	316	12%
固定負債	40	2%	35	2%
負債合計	235	14%	351	14%
純資産	1,459	86%	1,380	86%
負債純資産合計	1,694	100%	1,731	100%

安定財務基盤

流動比率

447%

自己資本比率

86%

(出所) 2018年12月期 決算説明会資料

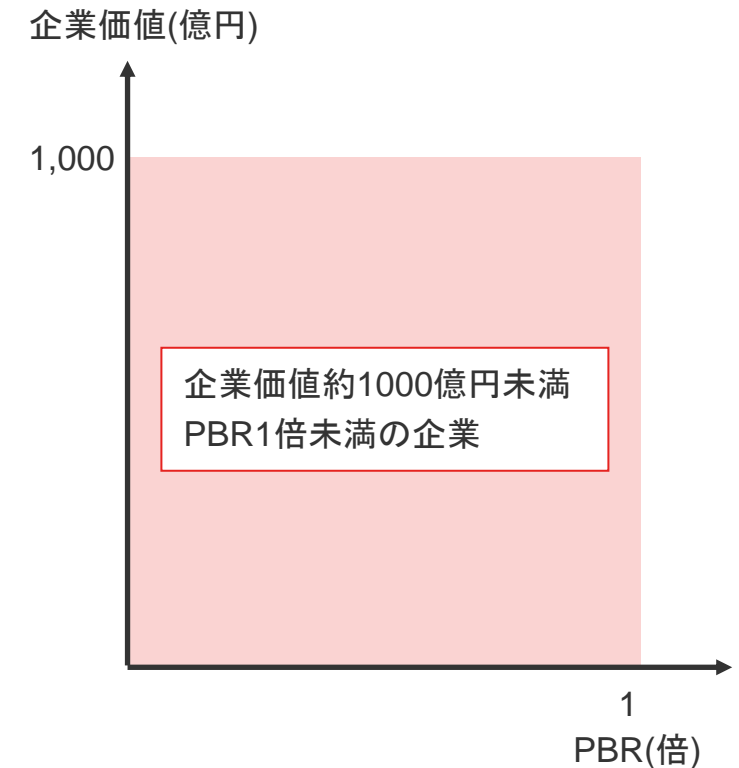
当社の中期投資計画について

中期経営計画にて目標とする営業利益の実現に向けて、必要な投資を適切に実行

当社の中期経営計画における投資スタンス

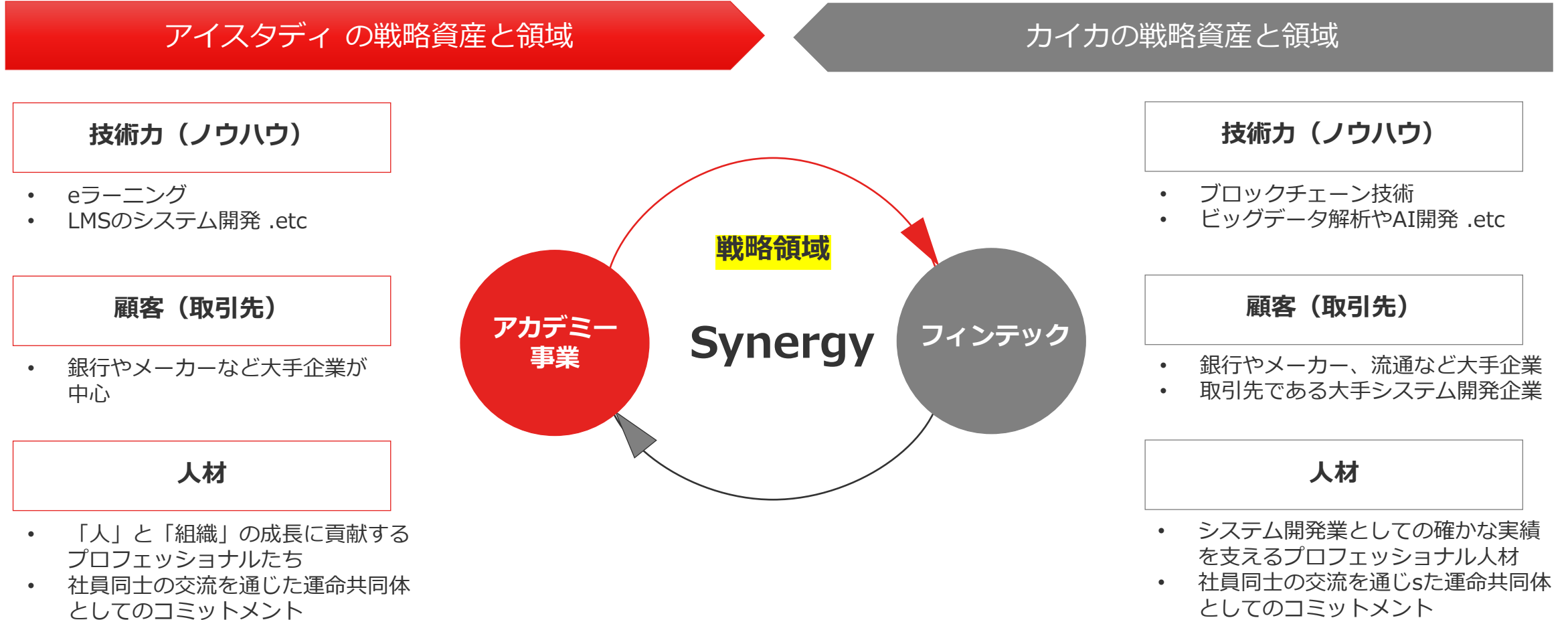
資金使途	優先順位	概要
事業投資	1	<ul style="list-style-type: none"> 単年度でのPL計上 事業計画の目標達成に必要な投資を積極展開
M&A	2	<ul style="list-style-type: none"> 対象企業は右図参照 投資回収期間は3年未満 必要に応じて借入の実行
純投資	3	<ul style="list-style-type: none"> 投資額はB/S計上 第三者の客観情報を踏まえ、マネジメントチームにてあらゆるシナリオを想定し、審議

M&Aの候補企業



カイカグループとのシナジー（1/3）

顧客・人材・技術（ノウハウ）といった互いの戦略資産を活用し、戦略領域でのシナジーを追求



早期にシナジーを実現し、非連続な成長への基盤を固める



ブロックチェーン技術者の育成とLMS事業の拡大



育成型人材紹介事業の拡大と先端技術者の獲得（確保）



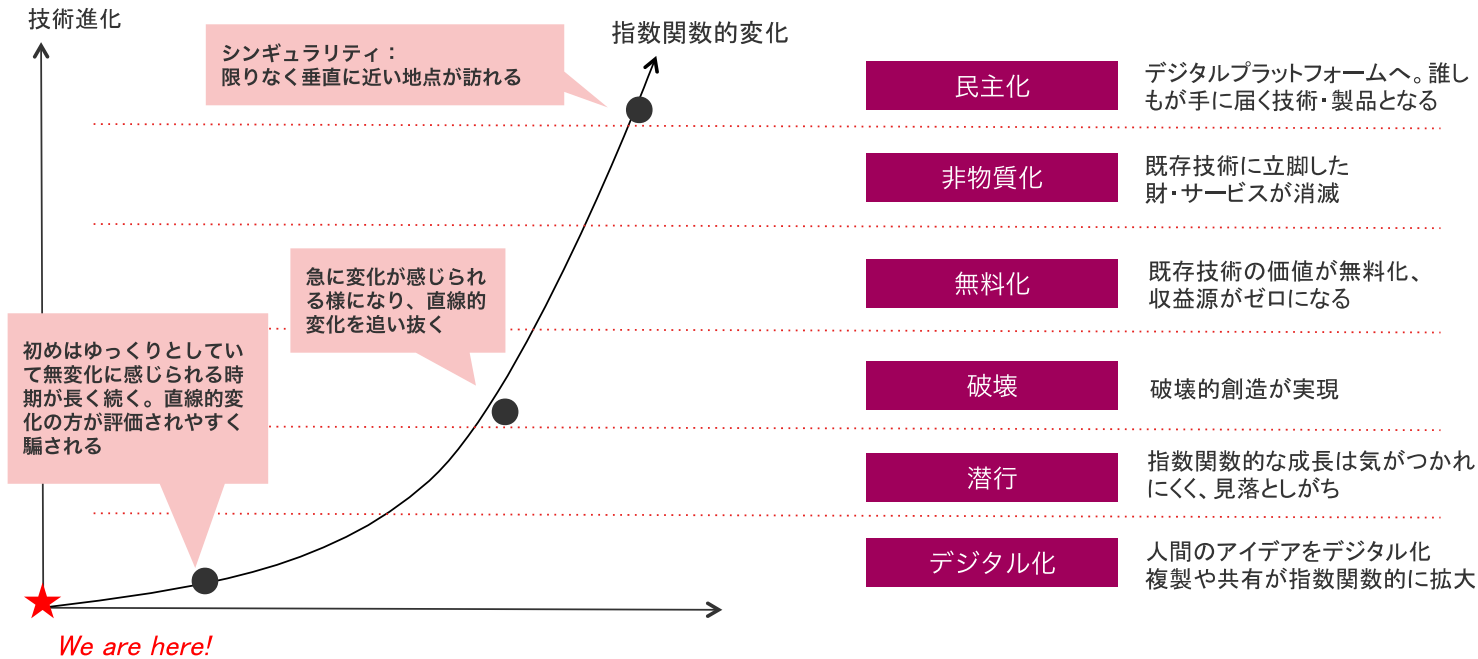
HRMSの開発

（注記）*HRMSとは、人材の採用、並びに採用した人材の配置、育成、評価、報酬といった人事制度全般を管理できるシステム
（出所）弊社リリース

カイカグループとのシナジー（3/3）

中長期目標だが、国内のHRテック分野にて確かなシェアの獲得を目指す
また、事業を通じて社会課題を解決する企業の代表格へ

国内のHRテック分野は指数関数的に成長



社会課題を解決

生産性改革をサポート

人手不足の解消

働き方改革を推進

(出所) 金融デジタルイノベーションの時代
(出所) クレディスイスイ証券
(出典) Peter Diamandis “BOLD”を参考にNTTデータ経営研究所にて作成

iStudy[®]

ご静聴有難うございました。

アイスタディ株式会社
2019年3月27日